

令和6年度 第1回 茨木市駅前周辺整備基本計画協議会 【説明資料】

<目次>

- 1. 前回協議会の振り返り…………… 1
 - 1. 前回協議会の説明内容
 - 2. 主なご意見
 - 3. 広域的立地特性
- 2. 中心市街地全体における駅前周辺の特性・役割…………… 3
 - 1. 基本計画の上位計画・関連計画
 - 2. 中心市街地の方向性や取組み(イメージ図)
 - 3. 上位計画等における2コア(両駅前)の位置づけ
- 3. JR茨木駅西口駅前周辺整備基本計画案骨子…………… 6
 - 1. JR茨木駅西口駅前周辺まちづくりビジョン
 - 2. 整備コンセプトと整備基本方針
 - 3. 土地利用ゾーニング
- 4. 阪急茨木市駅西口駅前周辺整備基本計画案骨子…………… 9
 - 1. これまでの経過・取組
 - 2. 整備コンセプトと整備基本方針
 - 3. 土地利用ゾーニング

令和6年5月10日



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

1. 前回協議会の振り返り

1. 前回協議会の説明内容

1. 基本計画の策定について

①策定の背景と目的

- ・再整備における基本的な方向性と目指す将来像を市民等と共有
- ・官民が連携してまちづくりを進めていくため

②駅周辺の沿革と対象区域

昭和45年大阪万博の開催に合わせて駅前広場と駅前ビルを整備

【JR】駅前ビル・広場、北東・南西密集市街地（約2.5ha）

【阪急】駅前ビル（茨木・永代ビル）、駅前広場（約1.6ha）

③JR茨木駅西口の課題、④阪急茨木市駅西口の課題



魅力的な滞留空間の不足



車両動線が複雑

2. 中心市街地におけるまちづくりについて

①中心市街地におけるまちづくりの取り組み

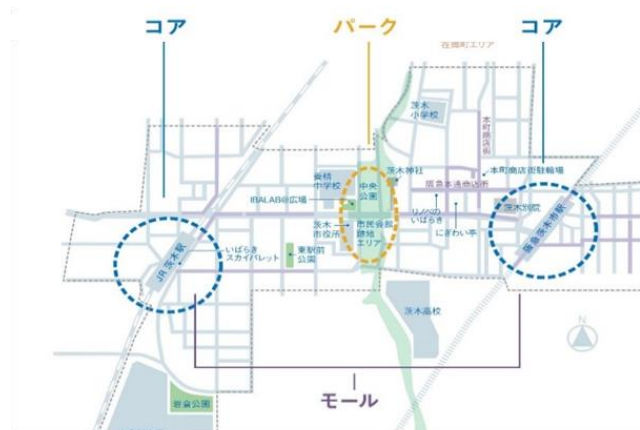
②基本計画の上位計画・関連計画

③中心市街地における両駅周辺の特性・役割

④これまでの主な経過と市民ニーズ【JR茨木駅西口】

⑤これまでの主な経過と市民ニーズ【阪急茨木市駅西口】

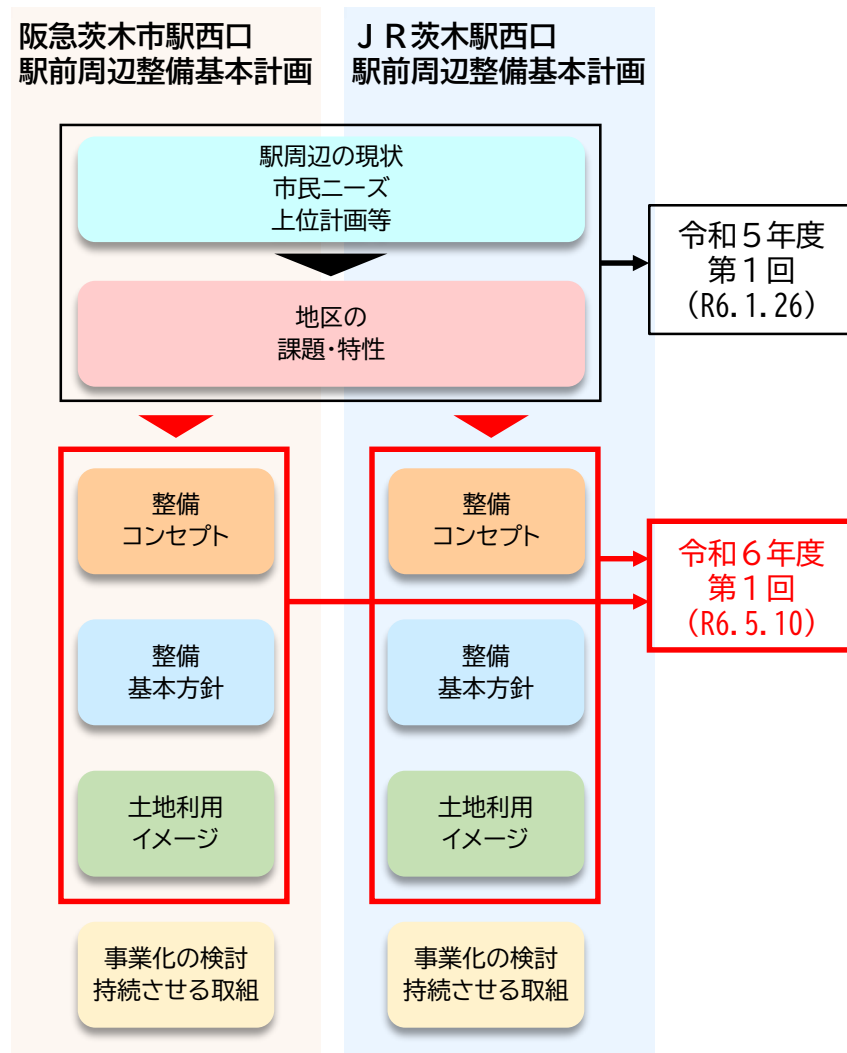
⑥近年のまちづくりに関する動きと取り組みの方向性



「2コア1パーク&モール」の都市構造

3. 基本計画の構成イメージ等について

①基本計画の構成イメージ、スケジュールと主な検討内容



2. 主なご意見

対象区域の考え方

2コア1パーク&モールの都市構造（中心市街地全体）における2コアの機能

対象区域だけではなく駅の東口を含めたまちづくりを考えることが必要

基本計画のコンセプト

基本計画のコンセプトと各上位計画の関係性の整理

若者や学生が多いという特徴を活かしたまちづくり

導入する都市機能やオープンスペース、地域のデザインコードは概念を共有

公共交通等

路線バスの現状と将来の見通し

ウォーカブルなまちづくりの重要性

駅前の将来ニーズ

将来、住む可能性のある潜在的な市民のニーズの把握

円滑な事業化

国の補助メニューを整理・記載することは具体的な事業化に繋がる

本日の進め方

中心市街地の方向性や取組み

2コア(両駅前)の位置づけ

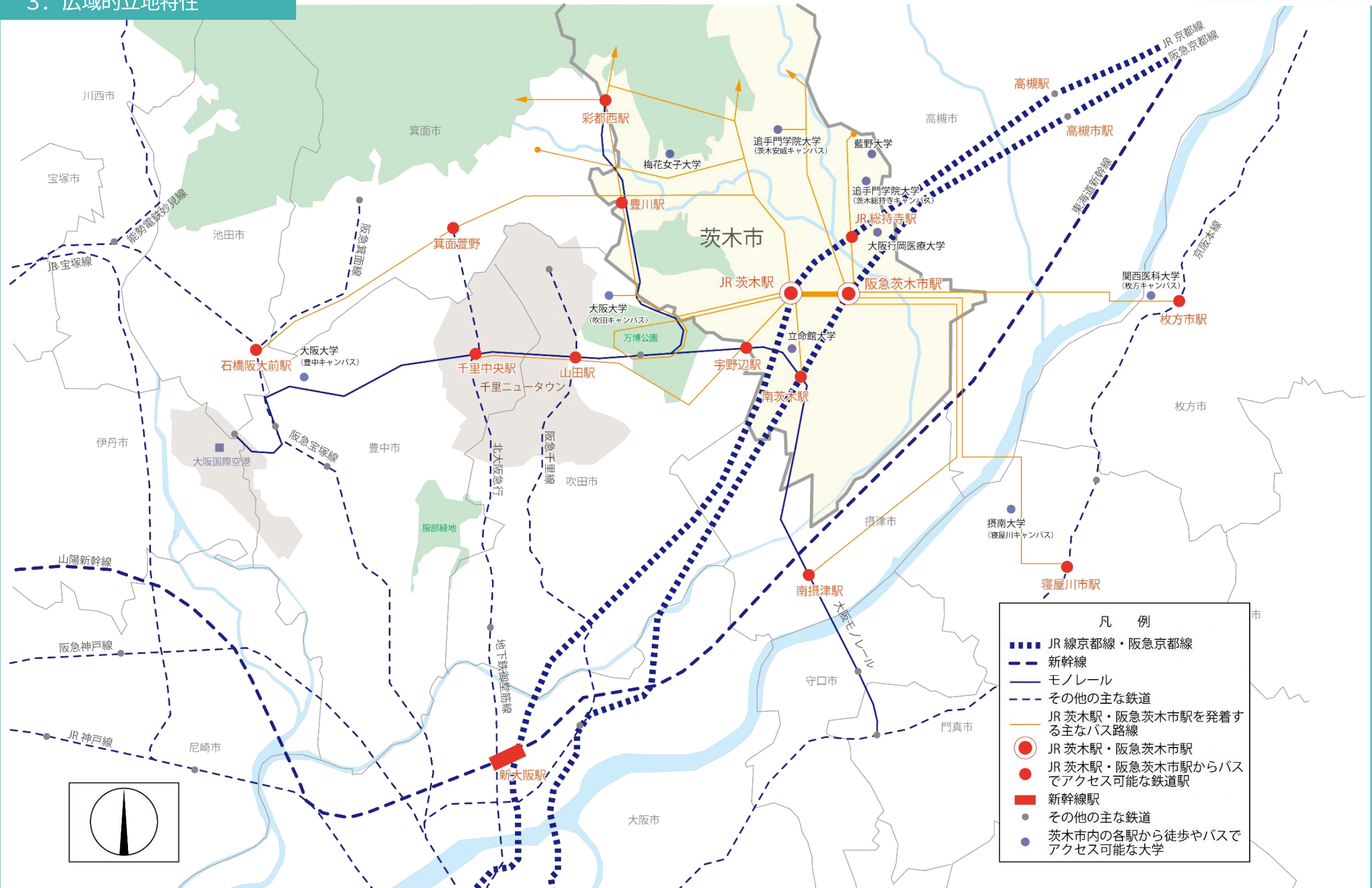
阪急茨木市駅西口
駅前周辺整備基本計画

整備コンセプト
整備基本方針
土地利用イメージ

J R 茨木駅西口
駅前周辺整備基本計画

整備コンセプト
整備基本方針
土地利用イメージ

3. 広域的立地特性

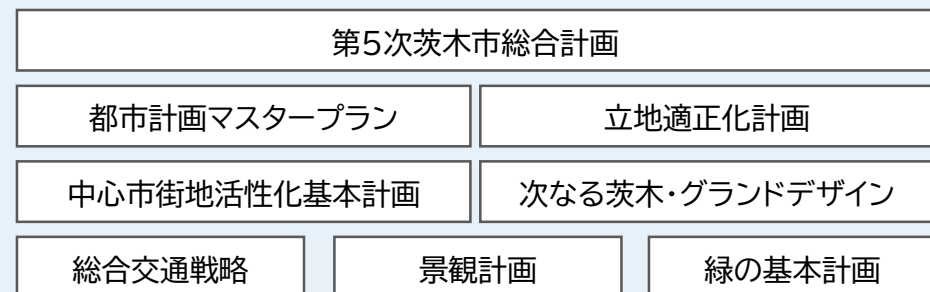


- 鉄道を通じて、大阪都心部や京都市中心部とつながるだけでなく、新大阪で新幹線に連絡、モノレールを通じて大阪国際空港に連絡し、広域的なつながりを持つ。
- バス路線網が市域を越えて東西方向に広がっており、北摂や北河内の主な鉄道駅と連絡するとともに、茨木市内外の多くの大学とも連絡している。

2. 中心市街地全体における駅前周辺の特性・役割

1. 基本計画の上位計画・関連計画

【上位計画・関連計画】



整合

【基本計画】



(1) 茨木市総合交通戦略 (平成26年3月策定、平成31年3月中間見直し)

将来の交通体系づくりの基本方針と交通施策（将来目標）

1. 「自動車に過度に依存しない、人と環境にやさしく安全な交通環境の構築」

テーマ①市街地における公共交通の充実

- 市街地では運行本数の多いバス路線網が整備され、路線バスを利用して鉄道駅や商業施設等へ行くことができる。

2. 「多様な都市活動を支え、利用しやすい交通環境の構築」

テーマ⑤交通結節点の機能強化

- 交通結節点である鉄道駅において、駅前広場から駅構内までの移動経路は全てバリアフリーに対応しており、高齢者など交通弱者が容易に他の交通機関への乗換えができる。
- 主要駅では、路線バスやタクシーの利用状況に応じた駅前広場が整備されている。

テーマ⑥公共交通利用環境の改善

- 交通結節点では公共交通網に関する運行情報や乗り場案内が提供され、初めて本市を訪れた人でも目的地へ行く方法がすぐに分かり、迷うことなく移動することができる。

3. 「まちの魅力を高める交通環境の構築」

テーマ⑧中心部での回遊性の高い空間の創出

- 中心部では公共空間の利用や中心市街地活性化施策と一体となりにぎわいが創出され、心地よく回遊できる道路空間が形成されている。
- JR茨木駅、阪急茨木市駅では市の玄関口にふさわしい周辺整備が行われている。

(2) 茨木市景観計画(平成24年3月策定、令和6年3月変更)

変更の概要

市の中心部において、文化・子育て複合施設「おにクル」の竣工やJR・阪急両駅前などの新たな拠点形成に向けた事業の進行にあわせて、各事業の効果を点から面へと波及させるため、歩きやすく、歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を進める。

景観計画の変更内容

■良好な景観形成の方針(にぎわい景観形成地区)

- 歩きたくなる空間を形成するため、歩行者等に配慮した、低層部の開放性や夜間景観の演出、まちなみの連続性等を誘導します。
- 居心地が良く滞在でき、ゆとりの感じられるまちなみを形成するため、建築物等の前面にオープンスペースを確保します。

■行為の制限に関する事項(にぎわい景観形成地区)

- 色彩…明るく賑わいの感じられる色彩(東西通りの沿道では、落ち着いた感じられる色彩) ⇒ ベースカラー基準
- 照明…商業施設の外部から視認できる照明は、電球色に近い温かみが感じられる色温度を基本とし、魅力ある夜間景観の演出に努める。
- 緑化…中央通りの沿道では、まちを華やかに彩る植栽、東西通りの沿道では、緑豊かな景観を形成する植栽の設置等に努める。

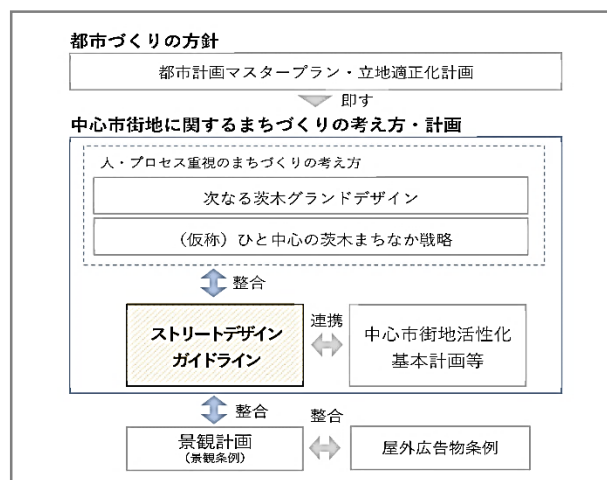
※景観重要公共施設に、「中央通り・東西通り」を指定

(3) 茨木市東西軸(中央通り・東西通り)ストリートデザインガイドライン(令和6年3月策定)

ガイドラインの概要

本ガイドラインは、歩きやすく歩きたくなるメインストリート(中央通り・東西通り)を官民が連携して実現するための指針として、道路・沿道空間のあり方やデザインの指針、実現に向けた方策等を示すもの。

位置付け



目指すべき将来像



東西通り

〈デザインコンセプト〉

身近にうるおいを感じる

良質で落ち着いたデザイン

～自然による癒しを感じ、おしゃれなお店でささやかな交流を楽しむ自由に過ごせる落ち着いた通り～



中央通り

〈デザインコンセプト〉

賑わいと交流を育む親しみやすいデザイン

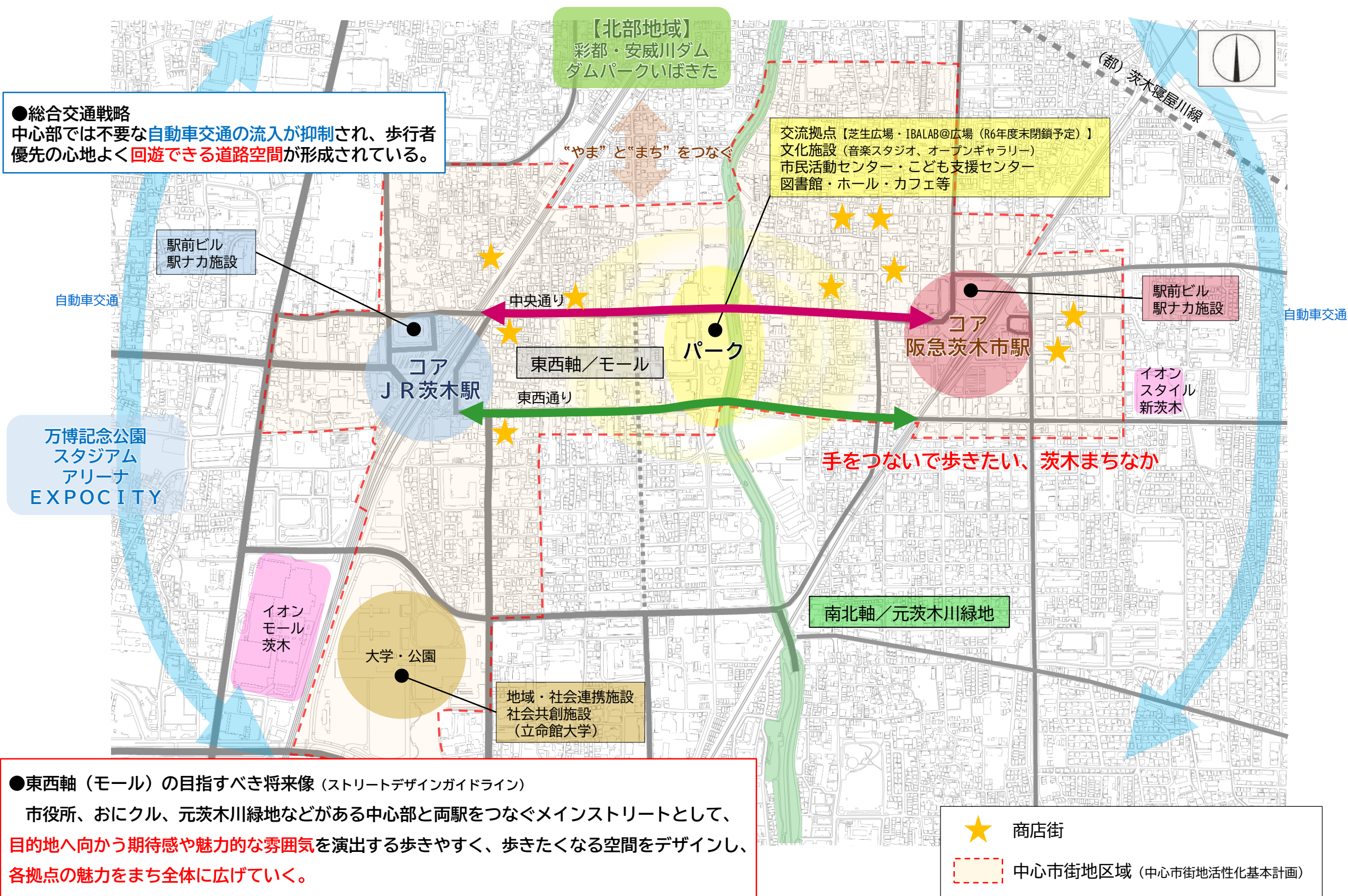
～気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先で交流が生まれ、まちの賑わいや人々の活動が広がる通り～



2. 中心市街地全体における駅前周辺の特徴・役割

2. 中心市街地の方向性や取組み（イメージ図）

中心市街地を「2コア1パーク」の都市構造で捉え、グランドデザインの骨格を形成していく。（次なる茨木グランドデザイン）



2. 中心市街地全体における駅前周辺の特性・役割

3. 上位計画等における2コア（両駅前）の位置づけ

機能	方向性	上位計画等における位置づけ
魅力・賑わい	人々の出会いや活動が生まれる場	【都市計画マスタープラン】 都市づくりプラン テーマ⑧ 暮らしを支える「拠点」を活性化する ●公共空間活用によるまちづくり ・中心市街地における道路・公園空間をはじめとした公共空間を、交流・活動が生まれる場として有効活用することにより、魅力的なまちづくりを推進します。 【次なる茨木グランドデザイン】 人々が何か活動したくなるような場所を公共、民間の中間領域として積極的につくりだすことを目指しています。
都市機能	商業をはじめとする生活利便施設の充実	【都市計画マスタープラン】 都市づくりプラン テーマ⑧ 暮らしを支える「拠点」を活性化する ●鉄道駅周辺等における拠点機能の強化 - 多くの人々が利用し、多様な機能が集中する駅周辺を、「地域の顔」「生活を支える拠点」と位置付け、「賑わい、美化、交通利便性」の向上を図り、集客力を高めるとともに、ベンチの設置や緑化の推進により、ゆとりのある空間を創出し、地域の活性化とイメージの向上につなげます。 【第三期茨木市産業振興アクションプラン】 ○商業によるにぎわいの創出 駅前商業の活性化に向けた支援
交通機能	人と公共交通が中心の駅前	【都市計画マスタープラン】 都市づくりプラン テーマ⑧ 暮らしを支える「拠点」を活性化する ●歩いて楽しい中心市街地とするための交通環境の充実 ●広域交通（通過交通）と生活交通を分離する環状道路体系の整備促進 【茨木市総合交通戦略】 テーマ①市街地における公共交通の充実 ・市街地では運行本数の多いバス路線網が整備され、路線バスを利用して鉄道駅や商業施設等へ行くことができる。
安全・安心	安心して安全に利用できる空間	【茨木市国土強靱化地域計画】 ●都市の不燃化の促進 ●帰宅困難者対策の充実 【茨木市バリアフリー基本構想】 重点地区：JR 茨木駅・阪急茨木市駅周辺地区 ●茨木市の顔となるバリアフリーなまちとして 茨木市を代表する地区として、市民や市内への来訪者が円滑に移動できるバリアフリーを進めていく必要があります。



【2コアに共通する目標】
おにクルを中心とした活動（景色）をパークから面的に広げ、中心市街地の更なる魅力向上を図るため、整備から50年以上が経過した茨木市の玄関口である両駅前を更新し、コアとしての機能を高める

3. JR茨木駅西口駅前周辺整備基本計画案骨子

1. JR茨木駅西口駅前周辺まちづくりビジョン

●上位計画・関連計画等における位置づけ

上位計画・関連計画	第5次総合計画
	魅力ある賑わい拠点を形成し、生活に彩りを持たせる地域
	都市計画マスタープラン
	駅前広場等交通拠点としての機能を強化
	商業・文化・生活支援機能が集約されたまちの拠点
	立地適正化計画
	時代に即した多様な都市機能の導入と駅前広場と一体となった空間の創出
	次なる茨木・ランドデザイン
	広域的な玄関口としての機能や場を備えた拠点
	中心市街地活性化基本計画
	駅前周辺整備等による利便性の向上
	総合交通戦略
	市民の暮らしを躍動させる交通拠点の創出
	景観計画
	茨木市の玄関口そして中心市街地にふさわしい景観の形成
社会動向	バリアフリー基本構想
	市民や市内への来訪者が円滑に移動できるバリアフリー化を進めていく
	緑の基本計画
	オープンスペースの確保、緑化の推進
	居住マスタープラン
	快適な移動を支える公共交通の維持・充実
	SDGs
	住み続けられるまちづくり
	コンパクト+ネットワーク
	高齢者や子育て世代が安心して暮らせる生活環境を実現し、持続可能な都市経営を可能とする
	市街地整備2.0
	エリア全体を複合的に更新することで、価値を高め、その価値を持続させていく
	ウォーカブル推進都市
	官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換し、内外の多様な人材、関係人口を更に惹きつける好循環が確立された都市を構築
	デジタル化・新型コロナ

JR茨木駅西口駅前周辺
まちづくりビジョン 令和3年9月策定

<まちの将来像>
だれもが、いつでも、どこへでも、つながることができる、暮らしの質を高める対流型駅まち空間

<まちづくりの方向性>

方向性① 更なる交通環境の向上

- ウォーカブルな人中心の利用しやすい駅周辺の再整備や、公共交通等の利便性向上や、将来的な公共交通事業の継続性への配慮等について検討

方向性② 多様な都市機能の集積

- 主に通勤・通学を目的に利用されているため、働くことや学ぶことを支える機能等、通勤者や通学者が本地区に求める都市機能の導入を目指すこと
- 駅利用者だけでなく多様な市民ニーズにも応え、市民の暮らしの充実を図るために必要な都市機能も集積させ、本市の中心市街地のコアとしてふさわしい都市拠点を目指すこと
- 都市機能の配置にあたって、駅とまちをつなぐことに留意し、駅前と周辺の魅力が一体的・相乗的に発揮され、付加価値の高い駅前周辺を目指すこと

方向性③ 持続性のある魅力・賑わいの創出

- 玄関口にふさわしいシンボル景観とともに、本市の景観形成を先導することや多様な人を惹きつける空間や機能を備えた魅力のあるまちづくりを目指すこと
- 駅周辺利用者の憩いや賑わいのためのオープンスペースや緑化空間等において、6大学11高校が立地する知的資源・活発な市民活動・企業等が連携し、市民の暮らしに寄り添い、生活に彩りを持たせる取組みを展開することで、更なる魅力的な空間となるなど、持続性のあるまちづくりを目指すこと

方向性④ 安全安心な駅前に向けた防災性の向上

- 狭小道路に面した建物が密集しているエリアや浸水想定区域を含んでおり、地区内の防災性が不足しているため、再整備により、狭小道路の解消や、災害時に利用できる空間の確保などにより、防災性の向上を目指すこと

●地区の特性及び課題

地区特性
- 大都市へのアクセスが良好で交通利便性が高く、通勤・通学の利用が多い - JR茨木駅周辺には、大規模商業施設や大学が立地しており、幹線道路も近接している - JR茨木駅西口駅前周辺は、市内外の人々の往来があり、まちの玄関口 - さらなる駅利用者増加の可能性 - 多くの路線バスの発着点となっている
地区課題
交通機能 - バスの運行経路と一般車やタクシー通行経路が重複しており、交通安全上望ましくない - バスロータリーに通過交通が流入しており、渋滞の原因となっている - 自転車通行帯の未整備や通行経路等の対策が不十分であることにより、自転車と車・歩行者が交錯しており危険 - 車両動線が主となっており、歩行者動線の連続性が乏しい
魅力・賑わい - バス待ち空間が不足しており、快適性に欠ける - 多様な活動のニーズに対応する拠点となる広場空間がなく、憩いや賑わいの創出につながない - 緑化空間の不足や統一感のない既存建築物の建ち並びにより、まちの顔としての景観が形成されていない
その他 - 島式バス停へのアクセスについて、デッキにエレベーターが設置されておらず、バリアフリー化されていない - 駅前の諸機能の連携が不十分 - 周辺拠点とのつながり・連携が不十分 - デッキが更新時期を迎えており、歩行者経路を検討の上、再整備の判断が必要 - 耐震性能不足の建物があり、防災性が脆弱

2. 整備コンセプトと整備基本方針

●まちづくりビジョン

＜まちの将来像＞
だれもが、いつでも、どこへでも、つながることが
できる、暮らしの質を高める対流型駅まち空間

方向性① 更なる交通環境の向上

方向性② 多様な都市機能の集積

方向性③ 持続性のある魅力・賑わいの創出

方向性④ 安全安心な駅前に向けた防災性の向上

●市民ニーズ

市民アンケート 令和3年12月実施

交通環境
昔のままのロータリーや狭い道、自動車、自転車、人が同じ道路を使用し、ごちゃごちゃしていて危険なので、整備して欲しい。
バス待ちや時間をつぶしたいと思う場所が無い。
もっと歩行者目線に立った交通体系を考えて欲しい。

都市機能
人と待ち合わせが出来るような場所。
駅の行き来で立ち寄ることができる商業施設ができれば、家族世帯はもちろん単身者や学生にとってもより魅力的な街になるように思います。

魅力・賑わい
木々が多く緑が豊かで安全に配慮された景観になってほしい。
駅前ターミナルの立地を活かした世代間交流スペース。

安全安心
駅前の歩道、建物、いずれも古いまま変わっていない。使いやすく、リニューアルしてほしい。
人がくつろげる、憩いの場所や広場兼防災広場的なものと利用したい。

まちづくり
魅力かつ回遊性のある街になればと望む。
茨木は大阪と京都の中間であり、しかもエキスポ・アリーナ・山も近いという立地を活かせば従来型の観光＋街遊び＋スポーツ・ライブ観覧＋山遊びができる可能性がある。

まちづくりワークショップ 令和4年3月～9月実施

◆駅前での過ごし方に関するたくさんのアイデア

通勤通学時に少し早めに駅に来て、コーヒーなどを飲みながら本や新聞を読みたい
子どものお迎えの帰りに気軽に立ち寄れる場所がほしい
友人とオープンカフェで過ごしたい
親子で参加できるワークショップを開催したい
人と少し会うのに気軽に立ち寄れる場所がほしい
非日常を味わえるイベントの開催
自然に触れたい
緑とアートを楽しみたい

◆たくさんのアイデアに共通する駅前に求める5つのキーワード

豊かな暮らし つながり（ひと、地域） 交流 みどり豊か 文化的

社会実験 あおぞらリビング いばソト 令和5年11月実施

Q.将来の広場空間の利用



今後も芝生などの広場空間を「利用したい」が93%と多く、「利用したくない」は0%であり、広場空間のニーズが確認できました。

Q.駅前に「こんなふうになったらいいな」

- ・バス待ちの20～40分楽しめる所がほしいな
- ・大人も子どももくつろげる場所
- ・花壇やベンチがあって、待ち合わせに使えたらいいな
- ・心地よく滞在できて、人と出会える場所になればいい

●整備コンセプト

“ソト” とのつながりの拠点
～ヒト・コト・モノがつながる「駅まち空間」へ～

●整備基本方針

暮らしの質を高める場

魅力と活力を生み出す「都市機能」をつくる

- ・駅前広場と都市機能と駅の一体的な空間を形成します。
- ・既存商店街等の周辺エリアとのつながりを踏まえ、駅前に必要な都市機能を導入します。
- ・日常生活の利便性向上に資する都市機能を導入します。

人とまちをつなぐ駅前

日常に潤いをもたらす「交流拠点」をつくる

- ・暮らしに彩りや潤いをもたらす、多様な活動・滞在を創出するため、周辺エリアとの歩行者動線が交差する駅前に、交流の拠点となる広場を整備します。
- ・人々が滞留できる魅力的な空間を効果的に配置します。

持続可能な地域を目指して

まちの価値を育てる「仕組み」をつくる

- ・再整備と並行して地域が主体となり官民が連携したエリアマネジメントの仕組み構築を促します。
- ・将来の更新性に配慮します。

災害に強い駅前を目指して

「安全・安心」なまちをつくる

- ・施設整備により都市機能更新を図り、老朽建物・旧耐震建物を解消します。
- ・災害時の一時避難場所や備蓄倉庫などの確保を図ります。
- ・駅前広場再編を中心に公共施設整備を行い、デッキ等の老朽化したインフラの更新を図ります。

豊かな緑を感じる玄関口

新たな茨木の「駅前景観」をつくる

- ・自然とまちが調和した、新たな茨木の顔となる景観を形成します。
- ・豊かなみどりのネットワークを形成します。
- ・魅力的な夜間景観を創出します。
- ・建物の低層部をまちに開かれた構造とし、賑わいの創出を図ります。

歩いて楽しいまちの起点へ

人中心の「交通結節点」をつくる

- ・駅前広場の利便性の向上と交通の円滑化を図るため、バス・タクシー・一般車の交通機能を再配置・整備し、駅前広場への通過交通の排除と公共交通と一般車の動線分離を検討します。
- ・円滑で快適な乗換え動線や待合空間を確保し、公共交通の利便性を向上します。
- ・ゆとりある歩行者空間の創出により、安全性、快適性を向上します。
- ・駅前空間から周辺市街地につながる連続的な歩行者空間の創出による回遊性向上を図ります。
- ・安全で快適に移動できる自転車利用環境の創出に努めます。
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザインに取り組み、だれもが使いやすい空間を整備します。

官民連携
イメージ

民間
主導

官民
連携

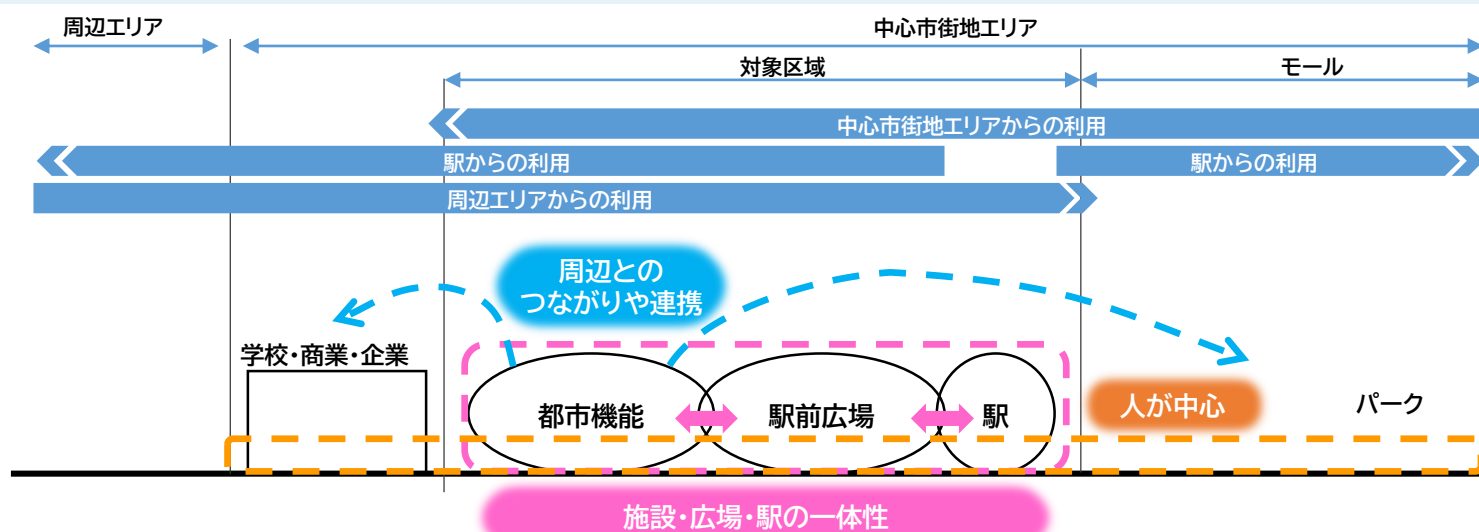
行政
主導

3. J R 茨木駅西口駅前周辺整備基本計画案骨子

3. 土地利用ゾーニング



●周辺との関係性イメージ



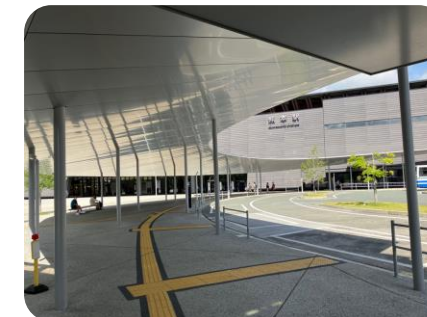
●既存機能を踏まえた導入イメージ



マーケット、飲食店舗
(特色の異なる店舗)



案内、情報発信



便利な駅前広場、
バスロータリー



ウォーカブルな駅前空間



滞留・待合スペース、
交流・憩いの広場

4. 阪急茨木市駅西口駅前周辺整備基本計画案骨子

1. これまでの経過・取組

●阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会（平成30年8月～令和2年6月 全10回）

周辺商店街や自治会、駅前ビルの関係者（地権者・営業者）などの方が参加し、阪急茨木市駅周辺の特徴や課題、各組織の取組状況等を共有するとともに、駅周辺の将来像の共有を図り、今後のまちづくりへ展開することを目的に、ワークショップを開催しました。



学集会の様子

まちに必要な機能と具体的な活用・過ごし方のイメージ

交通課題の改善や人々が集い活動する空間の創出、駅と商店街等とのつながりを改善した上で、阪急茨木市駅周辺に今後必要な主な機能としては、「憩い」「賑わい」「子育て」に関するニーズがあることから、これらの機能を新たに付加することにより、多世代が多目的に阪急茨木市駅周辺を活用し、市民生活に潤いを与え、子育てなどの生活を支援する駅前を将来イメージとして共有

憩い

自然が感じられ思い思いに過ごせる広場

- ・季節を感じたり、休憩、読書、音楽鑑賞、友人との待ち合わせなど、思い思いに過ごす広場
- ・歩くだけで気分が良くなる、楽しくなる街並み
- ・駅と商店街の動線沿いやビル屋上に広場（芝生）があると良い など

賑わい

生活に潤いを与える魅力的な空間

- ・記念日や仕事帰りに遅くまで利用できるカフェや飲食店
- ・シニア世代がちょっとカッコつけられる、大人がデートできるお洒落なお店
- ・天候に関わらず音楽やダンス等のイベントが開催できる屋内広場
- ・イベントがなくても飲食等の利用ができる広場 など

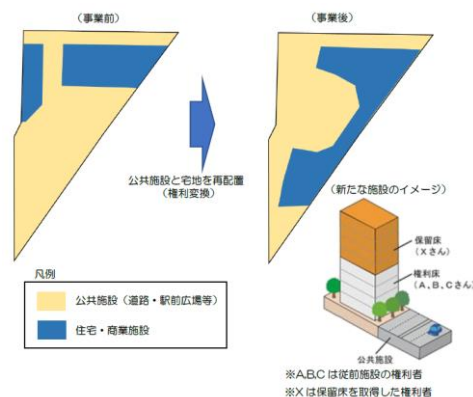
子育て

地域ぐるみの子育て支援

- ・幅広い年齢の子ども（未就学児～小学生）と一緒に利用できるカフェ
- ・子育てサロン等で学生が放課後や休日のお手伝い、子ども用イベント開催
- ・子どもが急に病気になった時でも対応できる施設（病児保育など）
- ・託児所付きの施設（レストラン・美容室など） など

●阪急茨木市駅西口駅前周辺整備基本計画案（令和2年6月公表）

●基本計画案（令和2年6月）



●市民等から疑問の声

案（超高層建築物を含む整備案）について駅前としての機能や施設配置、検討過程に対して疑問の声

●より多くの市民から共感を得るために見直し（令和4年5月）

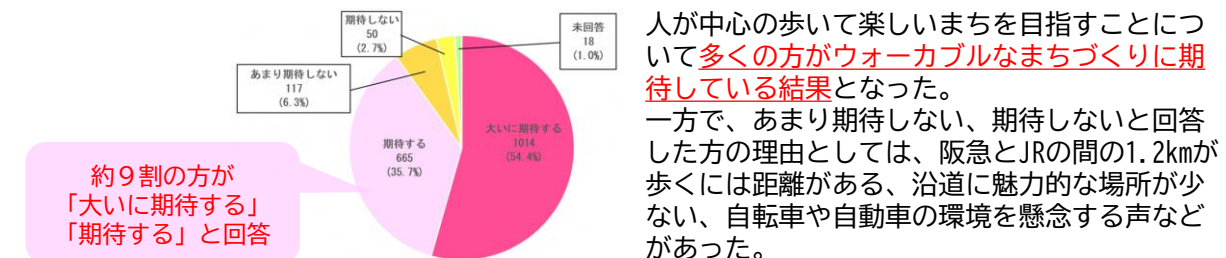
市民ニーズを丁寧にくみ取るとともに、共感を深める取組を行う
基本計画の検討段階から市民や駅利用者、関係団体等と地域の課題や整備の方向性を共有し連携 → アンケートの実施、基本計画協議会の設置

●アンケート調査（令和4年8月）

阪急茨木市駅西口周辺整備の計画案の見直しに向けた新たなスタートにあたり、改めて駅前が果たす役割等について検討するため、駅周辺の利用状況や、駅前に期待することなどについて幅広く市民や駅利用者のご意見を伺うことを目的として実施しました。

●回答数 1,864件 [内訳]インターネット1,686件、調査票178件

Q7. 人が中心の歩いて楽しいまちを目指すことについてどう思いますか。



Q11. 阪急茨木市駅西口の再整備に特に期待することを教えてください。

流行りのお店が入る商業施設	1069	(57.3%)
高齢者や障がい者、子ども連れの方等が利用しやすい施設・設備	713	(38.3%)
様々な活動やイベントができるオープンスペース	473	(25.4%)
バスの待ち時間などのちょっとした時間を快適に過ごせる場所	724	(38.8%)
花壇や街路樹などの緑のある景観	427	(22.9%)
余裕のある歩行者空間	693	(37.2%)
わかりやすいバス乗り場の案内表示（乗り場マップ・路線図・時刻表など）	317	(17.0%)
自動車が円滑に通行・アクセスできる交通環境	591	(31.7%)
その他	112	(6.0%)
未回答	19	(1.0%)

「流行りのお店が入る商業施設」が最も多く、次いで「バスの待ち時間などのちょっとした時間を快適に過ごせる場所」、「高齢者や障がい者、子ども連れの方等が利用しやすい施設・設備（多機能トイレ、赤ちゃんの駅など）」となっており、特に**商業機能の充実に関する回答が多かった。**

●ソシオ権利者への提案（令和5年10月）

将来の**更新性**を確保し、商業機能の充実と**魅力ある都市空間**を創出する

○将来の更新性

将来必ず訪れる建替えに備えた施設整備と権利形態

○商業機能の充実

市民・利用者の駅前ニーズに応えた生活利便施設
外向き店舗による駅前広場と一体的な賑わい
時代の変化に応じた更新が可能な一体的な管理運営(エリアマネジメント、床の共有化)



○魅力ある都市空間

緑のある憩いと交流が生まれる空間

まちなかに開かれた空間



商店街、社寺などの歴史的資源などとのつながりを見据え、回遊性を高めることで**地域全体の魅力向上と活性化**を目指す

2. 整備コンセプトと整備基本方針

- 地区の現況
- ・駅前にふさわしい景観や憩い・賑わい・交流空間、生活支援機能が不足
 - ・茨木阪急本通商店街など市民生活を支える複数の商店街等が立地
 - ・にぎわい形成を目指す中心市街地方向への起点
 - ・老朽化・耐震性の不足する駅前ビルが駅から商店街への主要な動線の一つになっている
 - ・内向きの店舗構造や個別のテナント運営により商業機能が低下
 - ・駅西口駅前広場における交通の輻輳や駅周辺道路の渋滞

- 上位計画等での位置づけ
- 人々の出会いや活動が生まれる場
 - ・都市計画マスタープラン
 - ・次なる茨木グランドデザイン
 - 商業を始めとする生活利便施設の充実
 - ・都市計画マスタープラン
 - ・産業振興アクションプラン
 - 安心して安全利用できる空間
 - ・国土強靱化地域計画
 - 人と公共交通が中心の駅前
 - ・都市計画マスタープラン
 - ・バリアフリー基本構想

- 市民ニーズ
- ・休憩・多世代交流・イベントなど多目的に活用でき、多世代が交流できる空間の創出
 - ・憩いや賑わい、子育て等、生活に潤いを与え、サポートする機能の確保
 - ・商店街や中央公園とつながり、歩いて楽しいまちづくり
 - ・交通環境の改善と安全で快適な歩行者空間

●整備コンセプト

●整備基本方針

機能	課題
魅力・賑わい	魅力ある都市空間
	持続性のある賑わいの創出
都市機能	商業機能の充実
	駅前にふさわしい景観
交通機能	交通結節機能の強化
	交通の円滑化
安全・安心	防災性の向上
	安全な歩行者動線

“ウチ” とのつながりの拠点
～人中心の居心地の良いまちなかへの起点～

整備基本方針
①活動が景色となる場づくり ・オープンスペースを確保し、市民・駅利用者の交流や活動が景色となる場を創出する。
②パークへのつながり ・中心市街地方向への円滑な動線を確保し、周辺地域への回遊を促す。
③市の中心駅らしい公共空間 ・ストリートファニチャーを含め周辺建物の景観形成と調和し、賑わいを生み出す公共空間をデザインする。
④にぎわいのマネジメント ・持続的な賑わいを創出するため、関係権利者やまちづくり会社が協力してエリアマネジメント活動を展開する。
⑤駅前商業施設 ・駅ナカ商業や周辺商店街それぞれの特性を考慮しながら、駅前施設の商業機能の充実を図るとともに、テナントを更新し易い形態にする。
⑥賑わいを創出する空間整備 ・外向き店舗や中間領域の活用により賑わいが感じられる駅前にする。
⑦駅前に相応しい都市景観づくり ・公共空間や周辺地域（寺社仏閣・在郷町）と合わせ、落ち着いた建物景観を誘導し、駅前としての一体感をもった景観形成を図る。 ・グリーンインフラ等の整備による自然と潤いを感じられる空間にする。
⑧人と公共交通が中心の駅前広場 ・東西の機能分担と駅前広場の改良により歩行者が安全・快適に往来できる環境と公共交通を中心とした駅前広場を整備（改良）する。
⑨円滑な自動車交通 ・道路線形や駅前広場入口・交差点の改良等により、自動車交通の円滑化を図る。
⑩防災空間の確保 ・災害時に来街者や帰宅困難者が安全に過ごすことができる一時滞留空間を確保する。
⑪歩行者動線の安全性向上 ・駅前施設の更新により、安全で快適な商店街方向へのバリアフリー動線を整備する。

なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

②③⑥ “ウチ” とのつながり：短期～長期

- ### ⑨円滑な自動車交通：短期

- ## ①②④⑤⑥⑦⑩⑪駅前施設（民間建物）の更新：短期

- ## ● 商店街への動線

茨木別院

中央通りへの動線

“うち”

元茨木川緑地
おにクル
(子育て・文化)
茨木市役所
(行政)

円滑な自動車交通

交差点改良

駅前広場
企業・学校送迎中心

商業
(物販・飲食)

駅東口におけるまちづくり：長期

- ・将来的に機運が高まった場合には、面的整備によるまちづくりを支援し、東西の一体的な空間づくりを誘導する
- ・東側商店街方向への人の動線を確保

まちづくりの機運醸成

①③⑦⑧駅前広場の改良：短期～中期

- ・東西の駅前広場が連携・分担して駅利用交通の処理を行うとともに、西口駅前広場内の車両動線を整理することで交通の輻輳を解消する
- ・歩行空間を拡幅し、歩行者が安全・快適に往来できる人と公共交通が中心の空間を創出する

駐輪機能

駐輪機能

救急病院

救急病院の誘致：短期

- ・地域で安心して暮らせるまちをめざし、地域医療体制の充実を図るとともに、小児救急も含めた救急体制の充実強化を図る

東西通りへの動線

●既存機能を踏まえた導入イメージ



一体感のある施設運営



外向き店舗



便利な駅前広場・
バスロータリー



滞留・待合スペース
ウォーカブルな駅前空間

凡 例

	行政主導
	官民連携
	民間誘導 民間主導